

令和6年度 第1回 観光振興審議会【令和6年8月28日】

【事務局】

本日は、ご多用中のところご出席いただきましてありがとうございます。私は、本日司会を務めさせていただきます、観光文化スポーツ部観光課グループリーダーの古川と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、只今より、令和6年度第1回八戸市観光振興審議会を開催いたします。はじめに委嘱状の交付を行います。市長が公務により欠席のため、佐々木副市長より交付いたします。

委員の皆さまのお名前をお手元の名簿順にお呼びしますので、その場でご起立願います。

【佐々木副市長より委員に委嘱状交付】

【事務局】

続きまして、佐々木副市長からご挨拶を申し上げます。

【佐々木副市長】

一言御挨拶を申し上げます。

皆様には御多用のところ、御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

このたびは、委員就任につきまして御承諾をいただき、心より感謝申し上げます。

市では、これまで様々な観光施策を行ってきており、「朝市と横丁」や三陸復興国立公園「種差海岸」、ユネスコ無形文化遺産の「八戸三社大祭」、さらには、八戸せんべい汁を始めとする食文化などが、当市を代表する観光資源として知られております。

また、それらに加えて、近年、中心街において、美術館やマチニワ、国際大会の会場となる屋内スケートリンクなど、観光資源として魅力ある施設も誕生しております。

このような中、市といたしましては、「食のまち・八戸」をテーマとして、八戸圏域の農業・畜産・水産資源を有効活用した観光施策を実施し、交流人口や関係人口の増加による圏域全体の活性化が重要と考えているところであります。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、観光のトレンドやニーズは変化してきておりますが、持続可能な質の高い観光を実現するために、今後策定いたします当市の観光振興プランに基づきまして、観光に携わる皆様が連携・協力し、八戸の更なるステップアップに向け、取り組んでまいりたいと考えております。

本日は、委員委嘱後最初の会議であり、初めに会長、副会長を選出いただき、その後、御審議いただくこととしておりますので、皆様には忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、委員の皆様におかれましては、当市の観光振興はもとより、広く市勢の発展につきまして、お力添えを賜りますようお願い申し上げ、挨拶いたします。

【事務局】

続きまして、当審議会の会長及び副会長の選出に入りたいと思います。本審議会は、八戸市観光振興審議会規則第5条により、会長が議長となり議事を進めていくこととなっておりますが、会長及び副会長が決まるまでの間、議事の進行につきましては、仮議長として佐々木副市長にお願いいたします。

【佐々木副市長】

それでは、会長及び副会長が決まるまでの間、仮議長を務めさせていただきます。会長及び副会長につきましては、八戸市観光振興審議会規則第4条第2項の規定に基づき、委員の互選により定めるとされております。どなたか選出についてご意見はございませんか。

【吉田委員】

はい。議長。

【佐々木副市長】

吉田委員どうぞ。

【吉田委員】

会長については、VISIT はちのへにおいて、八戸圏域にかかる観光振興を行っており、八戸の観光について知識や経験のある阿部委員が、副会長については、学識経験者であり、他の附属機関においても委員の経験をお持ちである井上委員が適任だと思います。

【佐々木副市長】

ありがとうございます。

ただいま、会長に阿部委員を、副会長に井上委員を推薦したいというご意見がございましたが、皆様いかがでしょうか。

「異議なし」

【佐々木副市長】

ご異議ないようです。阿部委員、井上委員よろしいでしょうか。

【阿部委員】

了承いたしました。

【井上委員】

了承いたしました。

【佐々木副市長】

はい、ありがとうございます。それでは、会長につきましては、阿部委員に、副会長につきましては井上委員にお願いしたいと思います。会長と副会長が決まりましたので、私は仮議長としての任務を終わらせていただきます。ありがとうございました。

【事務局】

阿部会長におかれましては、議長席へ、井上副会長におかれましては副会長席へ、それぞれお席の移動をお願いいたします。
それでは、阿部会長から一言ご挨拶をいただきたいと思います。

【阿部会長】

ただいま、皆様からの御推薦をいただきまして会長を務めることになりました、VISIT はちのへの阿部でございます。先ほど佐々木副市長からの挨拶でもありましたが、新型コロナウイルスの影響で観光のトレンドや観光客の皆様のニーズも変化してきていると思っています。また、国や県が新たな観光計画を策定し、新たな段階を迎えるなど、そういった動きを踏まえて、八戸市の観光振興プランに繋げていければと考えております。本日は事務局からの説明をもとに、様々な分野においての知識と経験を有する皆様からの忌憚のないご意見をいただきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございます。続きまして井上委員から一言お願いいたします。

【井上委員】

八戸学院大学の井上と申します。私は今、大学の地域経営学部というところで教員をやっておりますけれども、その流れで大学生と一緒に観光地でのフィールドワークや、大学生なりにどうすれば観光振興に繋がるのかということを考える活動をしています。先月には種差海岸でフィールドワーク及びイベントを実施しておりました。

市の審議会委員としては、まちの魅力創生ネットワーク会議の委員もやっております、若者・女性にとって魅力的な街になるにはどうすればいいのか？ということを考えています。

そういう中で、八戸の観光資源というものについて、若い世代が興味関心があるかということそうではないのかなと感じております。持続可能な観光という中で、若い世代にいかに観光に興味を持ってもらえるか、関わってもらえるかといったところも考えていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

なお、佐々木副市長は次の公務がございますので、ここで退席させていただきます。

それでは、会議に先立ちまして、出席委員についてご報告いたします。

委員総数 12 名のうち、齋藤【さいとう】委員が欠席により、本日の出席委員 11 名でございますので、八戸市観光振興審議会規則第 5 条第 2 項の規定により、本日の会議は成立しておりますことをご報告いたします。

続きまして、観光文化スポーツ部長の工藤より、当審議会の事務局をご紹介します。

【工藤観光文化スポーツ部長】

観光文化スポーツ部長の工藤でございます。

それでは私より、事務局職員を紹介いたします。

観光文化スポーツ部次長兼観光課長の下村です。

観光課企画グループリーダーの古川です。

観光課施設グループリーダーの佐々木です。

観光課主幹の小関です。

オブザーバーとして VISIT はちのへ企画広報課長の新山です。

以上です。よろしくお願いいたします。

【事務局】

続きまして、本日の資料の確認に入ります。

資料といたしましては、お手元の資料一覧でございますように、

- ・ 次第、委員名簿、席図、資料として、
- ・ 参考資料 1 附属機関の設置及び運営に関する要綱
- ・ 参考資料 2 附属機関の会議の公開に関する取扱い
- ・ 八戸市観光振興審議会の概要について
- ・ 八戸市の観光に関する現状と課題について

以上となります。

資料の漏れなどはございませんでしょうか。

よろしいようですので、それでは阿部会長よろしくお願いいたします。

【阿部会長】

それでは次第に従いまして、これから審議等に入りますが、審議等に入る前に審議会の運営について皆様にお諮りしたいと思います。事務局より説明をお願いします。

【事務局】

それでは、次第 5、審議会の運営につきまして、ご説明いたします。右上に参考資料 1 と記載のある資料をご覧ください。

まず、八戸市附属機関の設置及び運営に関する要綱第 5 条の【2】裏面となりますが、個人のプライバ

シーまたは政策形成過程における情報等に係る審議内容で、公開することにより当該附属機関の適正な議事運営に著しい支障が生じるおそれがある場合を除き、会議を公開することとあり、第6条に、会議の結果については、審議経過等が明らかになるよう、会議録等を作成し、会議資料とともに、市民等に対する情報提供に努めるものとし、この場合において、会議録等の作成に当たっては、少数意見についても可能な限り記載するものとするとしています。

次に、右上に参考資料2と記載のある資料をご覧ください。

附属機関の会議の公開等に関する取扱い第2の会議の公開基準におきまして、附属機関の会議は、法令等の規定により、非公開とされているものを除き、原則として公開するものとする。ただし、八戸市情報公開条例第7条各号に掲げる情報に該当する事項について審議等を行う場合、当該会議を公開することにより、公正かつ円滑な議事運営に著しい支障の生ずることが予想される場合は、当該会議の全部または一部を公開しないことができるとしています。

また、第3の会議の公開または非公開の決定の【1】に附属機関の会議の公開又は非公開の決定は、第2の会議の公開基準に基づき、当該附属機関の長が当該会議に諮って行うものとするとして、当該会議の審議内容は、公開することにより当該附属機関の適正な議事運営に著しい支障が生じるおそれがあることがないものと考えられますことから、会議を公開することとし、その議事録につきましても公開することにしたいと考えています。

そして、裏面となりますが、第6の会議録の作成及び公開の【1】に、附属機関の会議録は、会議の公開・非公開に関わらず、速やかに作成するものとする、【2】に公開した会議に係る会議録及び会議資料は、会議において公開しないこととした情報を除き、市ホームページへの掲載及び市役所内の情報公開コーナーでの閲覧の方法により、一般の利用に供するものとし、非公開の会議に係るものについては、可能な限り、公開に努めるものとする、【3】に会議録等の公開は、当該公開の日から少なくとも2年間これを行うものとするとしてあり、会議におけるご発言は会議録として記録されるものでございます。

最後に、会議録の確認方法ですが、特に市として規程等があるわけではございませんが、当審議会では、会長が確認し確定する、また会長が欠席となった場合は副会長が確認し確定する方法をとりたいと考えています。

次第の5、審議会の運営につきましては、以上でございます。

【阿部会長】

ただいま事務局から説明がありましたが、事務局の案を採用させていただき、当審議会の会議は原則公開とし、会議録については、事務局で作成後、会長の私が、私が欠席となった審議会においては、井上副会長にご確認いただき、公開するという事で考えておりましたが、いかがでしょうか。

「異議なし」

ありがとうございます。

それでは、このとおりで進めさせていただきますので、よろしくお願いします。

それでは、次第に従いまして、「八戸市観光振興審議会の概要について」事務局から説明願います。

【事務局】

八戸市観光振興審議会の概要について、資料に基づき、ご説明いたします。

まず、1の目的ですが、八戸市の観光を取り巻く様々な課題や環境の変化に対し、当市並びに官民連携による各種観光施策における基本的な取組方針を定め、観光による総合的・戦略的な地域振興を推進するための計画である八戸市観光振興プランの策定とプラン策定後の事業進捗等を調査審議することを目的としてございます。

次に2の審議内容ですが、八戸市観光振興プランについて重要な事項の調査審議に関することと、観光振興施策に関し必要な事項について調査及び検討をし、意見を述べることとしてございまして、3の委員構成は、学識経験者、知識経験のある者、観光団体関係者、公募に応じた者等、合計15人程度としてございます。

次に、4の審議会の開催予定等ですが、委嘱期間は委嘱の日から2年、開催回数は、令和6年度は年4回、令和7年度以降は原則として年1としてございます。

次に、5の令和6年度の予定ですが、今回第1回目で委嘱状交付、八戸市の課題・現状整理

10月に意見の整理・検討、基本方針、目標値等、目指すべき姿

12月に意見の整理・検討、観光基本計画素案

2月にとりまとめ、観光基本計画素案

という流れで進めていく予定で考えております。

資料の説明は以上でございます。

【阿部会長】

ただいま事務局から「本審議会の概要について」説明がありましたが、ご意見やご質問はございませんか。

「異議なし」

ないようですので、審議案件に移らせていただきます。「八戸市の観光に関する現状と課題について」、事務局から説明願います。

【下村観光文化スポーツ部次長兼観光課長】

私から「八戸市の観光に関する現状と課題」について、資料に基づきご説明させていただきます。

資料が全17ページで、少しボリュームありますので、各ページの要点についてご説明していきたいと思います。

それでは資料の1ページをお開き願います。

「観光課とVISITはちのへの業務の内訳」についてです。

当市の観光は、市観光課とDMOのVISITはちのへの両輪で展開しております。VISITはちのへは、当時あった観光コンベンション協会、物産協会、八戸広域観光推進協議会、八戸地域地場産業振興センターが合併し、平成31年4月に設立されました。

表にありますとおり、観光課は、VISITはちのへ補助金を支払ったり、自治体間の連携や観光施設

の管理業務を行っております。

一方、V I S I Tはちのへは、観光課から観光誘客や物産振興の業務を移管され、表のと通りの事業を行っております。

予算ベースで、観光課の業務の約6割が移管されております。

次に2ページをお開きください。

「観光課の業務について」ですが、観光課の主なハード事業を掲載しております。6番の八戸都市圏交流プラザ運営事業は、「8ベース」という愛称で、八戸圏域8市町村で展開しているアンテナショップで東京有楽町に構えております。

次に3ページに参りまして、「観光課の業務について」主なソフト事業ですが、1番、2番の種差海岸PR促進事業、三陸ジオパーク推進事業は、三陸復興国立公園「種差海岸」を軸に、みちのく潮風トレイルや三陸ジオパークに関する業務で、7番はちとま観光PR事業は、フェリー航路で結ばれている苫小牧市と観光やスポーツ分野で連携し、各種事業を行っているものです。

次に4ページに参りまして、「観光課の業務について」主な補助金交付事業を載せております。

次に5ページに参りまして、「八戸市内延べ宿泊者数」についてです。

四角枠の現状と課題ですが、令和5年度の宿泊者数は82万6,123人となっており、コロナ禍前とほぼ同等の水準に回復しております。

また、東北地方全体の課題でもあります。1月から3月の冬場の宿泊者数は落ち込んでおり、冬季観光が課題となっております。

次に6ページに参りまして、「観光地点、施設別の入込客数」ですが、最も入込客数が多いのは、八食センターで、3位に館鼻岸壁朝市となっておりますが、4位、6位は八戸ポータルミュージアムはっち、市美術館であります。はっちは2011年に開館、美術館は2021年に開館し、新たに文化観光につながる拠点も生まれております。

次に、7ページに参りまして、「行事別の入込客数」ですが、当市を代表する祭りである「八戸三社大祭」、「八戸えんぶり」が入込客数は多くなっておりますが、八戸三社大祭は認知度が低く、また、八戸えんぶりは2月の行事であります。その魅力を十分に冬季観光に活かしていない現状であります。

次に8ページに参りまして、「青森県観光入込客統計」ですが、県の統計から見た八戸市の現状ですが、観光入込客数は、八戸市が県内の市町村の中で最も多くなっております。この順位は令和4年度のみならず、長年、八戸市が1位となっております。

次に9ページに参りまして、「青森県自然公園観光地点の入込客数」ですが、三陸復興国立公園の数字は、種差・階上地域の分になりますが、県内の自然公園の中では、残念ながら5番目となっております。現在、八戸十和田トレイル120キロのトレイルも検討されており、今後、種差海岸と十和田湖との連携も強化していきたいと考えております。

次に10ページに参りまして、「はちのへエリア観光アンケート集計レポート」になります。令和4年度と比較して、令和5年度の1人あたりの平均旅行消費額は、日帰り客はやや落ちておりますが、宿泊客の消費額は上がっております。これは、飲食費と宿泊費の増に伴うものであります。この点につきまして、他都市との比較もしてみたいと思います。

次に 11 ページに参りまして、「2023 年度八戸圏域 認知浸透度調査」についてですが、せんべい汁は、関東圏、関西圏でも 44.5%、35.8%と認知度はあるものの、その他では、東北地域で八食センターが一定の認知度があるほかは、全体として認知度が低い現状であります。

八戸市といえば、水産都市、工業都市のイメージから、観光面では脱皮できていない状況が長く続いております。

次に 12 ページに参りまして、「八戸圏域外国人宿泊者数」についてですが、令和 5 年度のインバウンドの宿泊数は 25,613 人となっており、コロナ禍前の水準を上回っており、宿泊者数全体に占めるインバウンドの割合は約 3%となっております。

八戸市のインバウンドの特徴の 1 つに、スピードスケートの世界大会の開催や海外からのスピードスケートやアイスホッケーの合宿があげられます。

次に 13 ページに参りまして、「国別の八戸圏域外国人宿泊者数」についてですが、令和 5 年度の国別宿泊者数は、①アメリカ、②台湾、③中国、④韓国、⑤香港となっております。アメリカの宿泊者数の割合が約 18%となっておりますが、青森県の同国の割合が約 7%であるため、同国の割合が高いのが八戸の特徴となっております。

この理由については、十分な分析がまだできておりませんが、みちのく潮風トレイルが、アメリカのウォール・ストリート・ジャーナルに取り上げられたこと、また三沢米軍基地の影響もあるかもしれません。

次に 14 ページに参りまして、「訪日外国人の都道府県別訪問割合等」ですが、青森県は、東北地方では宮城県に次いで 2 位であるものの、青森県を訪問する割合はわずか 1%にとどまっております。

次に 15 ページに参りまして、「外国人移動相関分析」についてですが、青森県への滞在直前に滞在した地域は、東京都、岩手県、宮城県、北海道、秋田県が多く、80%以上を占めます。

また、青森県に来訪した外国人の交通に関する消費額は、全国と比べてレンタカーに関する支出の割合が突出しております。

次に 16 ページに参りまして、「入国空港、出国空港内訳」についてですが、2019 年は青森空港に韓国と台湾の定期便がありましたが、現在、青森空港では台湾便がなく、今年 10 月から復活する予定であります。

2019 年において、入国においては、仙台空港、青森空港と千人の差がありますが、出国の際は、仙台空港と青森空港の差は約 2 万人になります。

最後に、「その他」として八戸市の動向をのせておきました。八戸市美術館、長根屋内スケート場、三陸復興国立公園と、これまでの説明でふれさせていただきましたが、中心街に文化、スポーツ施設が誕生し、それぞれの施設がまたその取り組みが観光的側面、魅力も有していること、また、みちのく潮風トレイルのトレッキングにインバウンドのお客様が非常に増えている状況について、述べさせていただきました、私からの説明を終わります。

【阿部会長】

ただいま事務局から、「八戸市の観光に関する現状と課題について」説明がありました。

説明の中で、市観光課と VISIT 八戸の業務分担についての説明がありましたが、VISIT はちのへの業務

内容についても説明があった方が、わかりやすいと思いますので、VISIT はちのへの取組についても追加で説明をお願いしたいと思います。

【VISIT はちのへ新山課長】

VISIT はちのへの企画観光課長をやっております新山と申します。よろしくお願いいたします。VISIT はちのへの取組について説明させていただきます。

資料の1ページをご覧ください。当団体の概要といたしまして、名称は一般財団法人 VISIT はちのへでございます。当団体は八戸市物産協会や八戸観光コンベンション協会など4団体が合併して設立された団体で、その際、八戸市観光課の業務の6割が移管されております。

目標・ビジョンにつきましては、持続可能な地域づくりのための仕組みを構築し、「交流人口の拡大」と「地域産品の振興」を両輪とした事業を展開することとしております。

活動のエリアでございますが、八戸市だけでなく近隣の町村も含めた青森県南8市町村を活動エリアとしております。

続いて2ページをご覧ください。当団体の組織図となりますが、専務理事兼事務局長以下が常勤となりまして、企画広報課、物産振興課、誘客推進課、総務管理課の4課の体制となっております。

当団体のオフィスですが、八戸駅隣のユートリーの3階でございます。

続きまして3ページをご覧ください。

こちらが VISIT はちのへの事業全体の構造をお示しするものでありまして、交流人口の拡大と地域産品の振興とありますが、これは VISIT はちのへが DMO として行う事業であり、当団体では公益事業と呼んでおります。下の展示・即売事業、貸館・宿泊事業、駐車場事業は主にユートリーを活用したものになりまして、当団体の経営基盤の確立を目的とした事業でありまして、こちらは収益事業と呼ばれるものであります。

続いて4ページをご覧ください。

ここからは当団体の観光事業の基盤となる観光コンテンツをご紹介しますと思います。

まずは八戸のお祭りですけど左側は8月に行われました八戸三社大祭、右側は2月に行われております八戸えんぶりを掲載しております。いずれのお祭りも当団体が事務局を担当しております。

続いて5ページをご覧ください。

八戸市の自然として三陸復興国立公園である種差海岸天然芝生地と蕪島の蕪嶋神社の画像を掲載させていただきます。

蕪島を終起点としますみちのく潮風トレイルは今年全線開通5周年を迎えておりまして、インバウンドをはじめとして多くのお客様にトレイルを楽しんでいただいております。

続いて6ページをご覧ください。

こちらは八戸の朝市文化、横丁文化のご紹介でございます。左側は館鼻岸壁朝市の様子で毎回、県内外から多くのお客様にきていただいております。また今年10月には八戸市で全国朝市サミットが開催され、多くのお客様で賑わうことが期待されております。

右側は八戸市中心街にある8つの横丁の一つでありますたぬき小路の様子でございます。

続いて7ページをご覧ください。

八戸市の歴史のご紹介でございます。世界文化遺産になっております、北海道・北東北の縄文遺跡群についてですが、左側の写真は是川縄文館に所蔵されております国宝の合掌土偶でございます。右側の写真は櫛引八幡宮の国宝館に所蔵されております鎌倉時代の鎧ですが、これは2体とも国宝に指定されております。

続いて8ページをご覧ください。

これらは八戸の食文化のご紹介でございます。

せんべい汁、さば、ブイヤベースということで八戸の名産となっております。

下の段はお酒になるのですが、当市は歴史ある2つの日本酒の酒蔵がありますが、最近のカネク醸造のビールや南郷産のぶどうでつくるワインも人気が出てきております。

続いて9ページをご覧ください。

八戸圏域の7町村の観光コンテンツでございます。左側から南部町のフルーツ狩り、田子町のにんにくと田子牛、階上町のいちご煮、五戸町の馬肉、三戸町の1匹きのねこ、新郷村のキリストの墓、おいらせ町の自由の女神など近隣の町村にも魅力あるコンテンツがございますので、このような様々な組み合わせのもと、当団体として観光振興に取り組んでいるところでございます。

それでは10ページをご覧ください。当団体が実施しております主な公益事業について説明させていただきます。

まず、インバウンド事業でございますが、台湾などをターゲット国としまして、現地エージェントの配置ですとか、やまごころの村山様にアドバイス等をいただきながら事業を進めているところでございます。

次に旅行商品の造成事業でございますが、旅行エージェントを招請し、八戸エリアの観光スポット等を紹介し、理解を深めていただき旅行商品の造成につなげていくという事業でございます。

次の情報発信事業ですが、当団体のホームページやSNSを活用した魅力発信を行っているものです。

次のパンフレット作成事業は、その名の通り各種観光パンフレットを作成する事業でございます、現在は紙とデジタルの両方を提供しております。

次のデジタルマーケティング事業でございますが、首都圏を中心としたターゲット層に対し、オンラインの広告を配信することで誘客や地域産品のPRにつなげるものでございます。

次のMICE事業でございますが、交流人口の拡大に有効な手段であるMICEの誘致促進を図るため、商談会への参加や補助金の交付等を行っております。

次の種差海岸PR促進事業でございますけれども、種差海岸エリアの移動の利便性や回遊性の向上のためレンタサイクルを実施しております。

最後の観光ガイド育成推進事業ですけれども、種差海岸インフォメーションセンターをご利用された方が、短時間で周辺をガイド付き散策できるガイドプログラムを実施しているものです。

簡単ではございますが、VISITの取組の説明を終わります。

【阿部会長】

ありがとうございます。

それではこのあと委員の皆様から一人ずつご意見を伺う予定でございますけれども、その前に観光課と VISIT はちのへの説明に対して何かお聞きしたいこととかご質問ございますでしょうか。

【河東委員】

ご説明ありがとうございました。

質問ですけれども、例えば消費額等出ておりましたけれども、どこか同じような規模の街であるとか、港町であるとか、参考にしているというかベンチマークにしている街というのはございますでしょうか。そうすると、先程他との比較ということをおっしゃっていましたがそういったものが出しやすくなるのかと思いました。質問でございます。

【下村次長兼観光課長】

観光消費額ということでいきますと、ベンチマークとなるような都市をまだ絞っていないのですが、今までの観光全体の取り組みにつきましてはやはり同じ港町というくくりでいきますと函館市。そして、またいろいろな JR との連携をしているという中では弘前市、青森市と比べながらもお互いが補填しあいながら様々なキャンペーン活動をしてきました。また特に三陸復興国立公園が出来てからは港町でいきますと宮古市、あとは海外からの注目でございます盛岡市になるのかな、と考えております。個人的な感想にはなりますが連携しあいながらも、お互い補填しながら、八戸市の魅力とは何かといったときに今言った街にないものを掘り出すのも観光コンテンツを掘り下げていくうえでは指標といいますか、ひとつのベンチマークのようなこととおさえながら今まで取り組んできた経緯があります。しかし、繰り返しになりますが消費額という点において、全体のトレンドをみながら、八戸市の数値は青森県のトレンドと連動しているところがありまして、青森県のトレンドはそれはそれとしながら、今言ったような都市間競争という中においてはもう少し調べていく必要があると考えております。以上です。

【河東委員】

ありがとうございます。

パッと見、宿泊客の消費額が比較的多いんじゃないかと思いますよね。今名前が出ました例えば函館市などはホームページ等に公表しておりまして、おそらく宿泊費が函館市の場合は二万円くらい高いんですね。ホームページ見ると出ていると思うんですけども。それがどうしてなのか、どうやっているのか、そのあたりを研究していく意義もあるのかなと思います。

【阿部会長】

ありがとうございます。他にご質問ある方はございますか。はい、大矢委員。

【大矢委員】

大矢でございます。本日はありがとうございます。

中継レポートの数字のほうで疑問点がございまして、もしよろしければ教えて頂きたい点があるのですが。10 ページの宿泊のデータです。そこに宿泊者 7 割がリピーターで占められているということで、同時に課題としては旅行消費額やリピーター率の向上というふうにございます。私、宿泊事業をやっているのですが、7 割という数字は驚異的なリピーター率だと認識しているのですが、さらにリピーター率を向上と掲げているというのは何か理由というか裏付けがあるのか、もしよろしければ教えていただきたいと思います。

【VISIT はちのへ新山企画広報課長】

ありがとうございます。

まずリピーターの向上については、長く泊まっていただきたいと考えております。下をみていただきますと、平均宿泊者数が 1.67 ということで、2 泊以下という状況でございます。リピーター率の向上を図ることでこの宿泊数が伸びてくれればという思いもあつての設定でございます。

【下村次長兼観光課長】

委員のご指摘の通り、単純にリピーター率というのは、ちょっと言葉足らずのところがあるのですが、宿泊者数 1.7 を伸ばしたいという中においてその意味を含めてリピーター率の向上と書いているのですが、委員のおっしゃる通り、私はどちらかというとプラス満足度だとか、青森県がそれを示しておりますので、そういった視点も必要なのかなと思います。説明においては言葉足らずだった点もあると思います。

【大矢委員】

理解する事ができました。ありがとうございます。

【阿部会長】

他にございますか。はい、高橋委員。

【高橋委員】

今日はありがとうございます。

このあとも活発な議論をさせていただきたいと思っておりますが。先程 VISIT はちのへのほうから写真、いろんな自然や食、観光地の魅力がありますが、私も下村次長を含めて何回も連れてって頂いているところで、写真で改めてみて、本当にきれいで、食べたいなとか、縄文まであるみたいなどころですごいなあと思うのですが、一方でなんでもありすぎるというところから、これをどういうふうに観光客に対してメッセージをしていくのかというのが改めて大事だと思います。観光ビジョンというか観光スローガンといいますか、になりたい姿というか、八戸の市民の方も含めて自分の将来はこうとか、こういう

未来がいいよねとかいうものがあれば教えて頂きたいと思います。それは八戸市のほうのビジョンに近いリンクしてくるのかもしれませんが、冒頭にあった交流人口とか物産の振興というか、どちらかというとゴールの手前になりたい姿というのがこれからの時代に必要だと思いますので、そのちょっと「強み」みたいなものがあれば教えて頂きたいと思いますし、これから作っていくということであればそうしてもいいと思いますけれども。

【下村次長兼観光課長】

端的にいきますと、他都市の例等も我々も調査しているのですが、やはり今の所ないというような状況です。古くは「ホっとする八戸」だったり、「こんなにもあるよ八戸」というような取り組みをしてきたこともあるのですが、認知度を上げる事と消費額が連動することはあるかとは思いますが、観光事業者の方々のやる気、先程副市長の挨拶でもあったように、同じ方向を向くためにキーワードとなるものはなにか。今までは食と自然という分野での話をしてプレゼンしてきたこともあるのですが、改めて市民にとっても、また観光客にとってもどんな街なのかイメージさせるキーワードを、先程見た通り函館市はもう一回というようなそういうリピーターを促すようなキャッチコピーも持っていますし、そこは皆さまからも意見を聞きながらこの審議会を通じて作り上げていきたいと思っております。以上でございます。

【阿部会長】

他に皆様からご質問等ございませんでしょうか。よろしいですか。

それでは、ここでいったん休憩をはさみたいと思います。

5分くらいの休憩で、再開を4時5分といたします。

【阿部会長】

それでは先程も終わる時にお話したのですが、このあと委員の皆様から一人ずつ、今回初回になりますので、色々思っていることとか期待すること、先程色々質問もあったのですが、検討をするのに必要なデータの取り方、要望などを伺っていききたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。大変恐縮ですが、名簿順の五十音順で大矢委員から順にお願いしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

【大矢委員】

大矢と申します。よろしくお願いいたします。

私は今回、こちらの観光審議会の方、公募という形で応募させて頂きました。私、現在インバウンドをメインターゲットとする宿泊施設の運営を都内で行っておりまして、約20年ほどホテル業界に携わっております。約20年前、この業界に入って以降、ずっと八戸の観光の在り方というものについて思いを巡らせて過ごしてまいりました。八戸の観光、地域経済循環というところを継続的に生み出していく、そのためにはインバウンドによる外貨の獲得ですとか、産学官連携の観光人財の育成、これが非常に大

事であると常々思っておりまして。今回このような形で携わらせていただけて光栄に思っておりますし、有意義な議論をできるだけ私も活発に発言できるように頑張りたいと思います。

今回臨む中でこうだったらいいなというところに関しては、河東様のほうからも話があったところに被るのですが、2点ございまして、1点目は情報です。情報量というのが圧倒的に少ないと感じています。今いろいろとお示し頂いているデータがございますが、データの量、質、当然ながら分析のアプローチ、多角的であるべきだと思いますし、今後議論の中でこういった数字に関しての在り方というものも話していきたいと思っています。

もう一点は指針です。先程スローガンの話が高橋様からございましたけれども、こういった方に来ていただきたいか、特にインバウンドに関してはこういった文脈で来ていただきたいかというところをしっかりと偶像として示していく。そのうえで正しい価値を正しい価格で販売していく。そういった観光の体制づくりというのが非常に重要ではないかと考えております。いずれにしても今回初めてということで今後ともよろしくお願い申し上げます。

【阿部会長】

ありがとうございます。河東委員お願いいたします。

【河東委員】

それではよろしくお願いいたします。

昨日観光庁から来年度予算の概算要求が出ております。概算要求の中で、一番上にあるのが持続可能な観光です。持続可能な観光は対前年予算で2.4倍くらいになっていました。観光振興プランの中にもその文言がひとつ欲しいと思います。今後ビジョンを作っていく中で持続可能な観光。それは何かというと、お客さんが八戸に来ることによって地域消費額が上がる、あるいは関係している事業者に利益がおよぶ、そこをもう少し強化していく取り組みをぜひやっていただきたいと思います。

それがひとつと、やはり外国人がきて、たとえば潮風トレイルを歩いていると、この八戸は起点でありゴールである。非常に大切なポイントですのでぜひ力を入れて頂きたいと思います。もしかすると、駅長からはいいにくいかもしれませんが、レールパスを使うと3万円で5日間JR東日本の電車が乗り放題ということになります。八戸は正直東京から来ると交通費がかかる、日本人が行くとかかる、遠いという印象があるかもしれませんが、外国人がパスを買った場合どこで降りても同じ金額ということもあり遠い所に行きやすいと部分もありますし、ターゲットの中でパスを買う外国人みたいなところがひとつターゲットになるかもしれません。そういった人たちが今レールパス使っているのか使っていないのか、そんなところも調査していただけると次に繋がるのかなと思います。よろしくお願いいたします。

【阿部会長】

高橋委員お願いいたします。

【高橋委員】

私自身東京に住んでいまして、観光の専門家ではないのですが、マーケティングや PR をやっているという関係から観光という八戸のブランドというものを強くすることに寄与できればと思っております。そういう観点でいうと、今、河東委員がおっしゃっていたような持続可能性、持続可能性の中でも文字通りのサステナブルツーリズムに個人的に注目しております。種差には素晴らしい自然の遺産ですとか、十和田にも繋がるというところから、CO2 を減らしていくというようなところの中で、環境を守っていくということが日本にはもともとあると思いますので、そちらのほうをどういうふうにできるのか。経済的にも成立させながらどうできるのかというのを自分がテーマとして持っています。幸運なことに八戸市の方々とそれを議論できるのであれば何か提案をしていきたいと思っております。インバウンドの方にもかかわっているのですが、特に日本の観光自体は富裕層に来ていただきたい、単価を高いものを落としていきたいというふうに間違いなくいっていると思うのですが、欧米を中心とした方々が、生態系とか CO2 を出さないというところでサステナビリティに配慮している商品、サービスを買うという傾向、日本においても Z 世代は意識としてはそちらのほうが高いということがありますので、そこをしっかり取っていくというのはまだどこも出来ていないと思いますので、そういった方向で何かチャレンジなものをやっていって、まだ誰もやっていないことを八戸でやれるというようにところをできたら素晴らしいと思います。

それから、デジタルですね。観光、知らせていくという意味でもパンフレットとか重要なんですが、時代はデジタルになっている。特に旅行者自身が高度なパソコンを手元にいつも持って、それが繋がっていく時代になっているので。そこを利用した事業者さんを含めたデジタル系のサステナブルツーリズムみたいなものもあるはずですので、その辺の仕掛けも八戸ならではのことをやっていけるといいのかなあというのがふたつ目です。

あとは、来て帰るだけではなくて交流人口のところですが、市民の方と観光客の方が繋がると市民の方の幸福度が上がるというところが一番大切だと思いますので、それを観光という機会で実施できることができるかなあと思っています。先程河東委員にインバウンドはどうなんですかと聞いたらいろいろ大変なところもあると言っていました、いろんなテクノロジーとか法制度が変わっていく中で市民と観光客が交流するようなことができればと。その三つを関心領域として持っています。

どんなデータなのかというのは、先程大矢さんが言ったように、みんなで工夫しながら、できたできないというのがデータの中にあると思いますので、データの取り方なんかも工夫して、議論していきたいと思います。

【阿部会長】

ありがとうございます。原委員お願いいたします。

【原委員】

八戸商工会議所、原と申します。よろしくお願いします。

商工会議所の方では昨年観光委員会というものを立ち上げておりまして、その中でいろいろと事業を初

めて行うところもありまして、まずは商工会議所ですので地域の事業者さん、観光客が増えても受け入れをする事業者がうまく活かしていただきたいということを視点におきまして、まずインバウンドのお客様が増えたらどういうことをしたほうがいいのか、そういったことでも去年は村山さんにも講師になっていただきまして、セミナーなども行ったりしております。あとは食ということで、八戸はいろんな食材が豊富にございまして、その中で今年来月9月からはグルメツアーズというものを復活させてやっていったりとか、産業観光ということでも産業地である八戸の数ある工業、工場ですとか、企業さんを訪問させていただく機会がないかとかそういった調査も行っています。あとは二次交通のほうで、皆さんに聞いていますと観光で来られた方のその先の二次交通に困っている、八戸はそういったところが少ないというお声を頂いたこともありまして、市内のタクシーの協会さんとも意見交換をさせていただいたり、それぞれプランをお持ちではあるんですけども、なかなか活用されていない、ということは周知されていないということです、その辺を周知していきたいということもこれから課題としてありますので、委員会のほうでも一緒にやっていきたいというところで、そういった活動をしております。インバウンドということで、商工会議所ですので、各地の商工会議所、横のつながりのネットワークというものがありますので、昨年から盛岡もインバウンドで増えていたということもありますので、そちらの方々と交流会をしたりということも行っておりますので、商工会議所ではそういったこともやりつつ、あとは地元ではVISITはちのへさんのアンケートとかそういったところも協力させていただいておりますので、今日の資料にあります観光地のどこにどれくらいの人がいるのか、そういったところの数値も商工会議所では知りえなかった数字の部分でありますので、そういったところを共有できる機会があればさらにいいのかなと思っております。以上でございます。

【阿部会長】

ありがとうございます。町田委員よろしく願いいたします。

【町田委員】

ACプロモートの町田です。いろいろ話したいことがたくさんありすぎて、いくつか絞っていききたいと思うのですが、このプランを作るということにおいて、今までなかったというのがはて？って感じなのですが、それを今わざわざ作るということは、どこにでも通用しそうなプランというのは割とあちこちにあると思うのですが、八戸ならではの、八戸の観光に対する意気込みみたいな、そういうものが、どんな観光を目指しているのか、それがある程度伝わるようなものにしていくべきではないかと大前提で思っています。その中で、皆さんのおそらく観光という言葉に対してのとらえ方が今ここにいらっしゃる皆さんの中でも全然違うと思うんですね。ACプロモートとかNPO法人ACTYは何十年観光地域づくりを進めながら観光コンテンツを一個一個作りながらそれを商品にして、稼ぐ観光という、商品が売れないと会社が潰れるというさなかで何十年商品づくりをしてきておりますので、そういった目線で、八戸の観光で何を表現していきたいのか。今日の資料は現状と課題しかないのこれからビジョンを作る、目指す方向性を決めていくんだということかもしれないんですが、あまりにも漠然としておりますし、皆さんが地元の方というわけでもないですし、目指す方向という話が先程も出ていたのですが、とことん定住・

移住を目指すために観光を行うのか、普通に産業・ビジネスとして八戸にしかない魅力を発信していく観光をやるのか、地域が幸せになるために観光地域づくりをみんなで頑張っていくんだというものなのか、そもそもどこにあるのか。そういうふうには私はいつも考えているんですが、VISIT はちのへさんの先程の取り組みの中でも、目標指標のところに観光のかの字も出てきていない。①②はまあまあ、3つ目は観光に一番近い文言だと思うのですが、観光ビジネスとしてとらえて、八戸を観光地として売り出していくというニュアンスとは違うと思うんですね。違うなら違うでいいんですけども、違うから何を指すというところをしっかりと共有していかなければいけないと思います。おそらく皆さんの観光に対する考え方が違ってらるんだと。先程 VISIT はちのへさんで説明をされていたときに、観光コンテンツという話が出ていたんですが、皆さん観光コンテンツって何をイメージされますか。地域資源と観光コンテンツは何が違うんですか、となって。地域資源は地域にあるもので、観光コンテンツはおそらくそれを活用して体験できる何かというもので、そこからプロダクトが生まれてきて、それが観光のビジネスに繋がっていくと思うのですが、その中で地域資源と観光コンテンツがすごく混在していると見受けられましたので、その辺の認識を共有していかないとプランを作るときにあっちにいたりこっちに行ったりしていくんじゃないかという怖さを感じました。VISIT はちのへさんの中で旅行商品造成の支援という話もあったんですが、それはあくまでもこうなりますああなります、地域資源を紹介してどこかに委ねている、旅行商品を大手さん作ってください、でもそんなの世界で誇れるような商品にならないと思うんですけど、そのときにしっかりランドオペレータなどを育てていきましょう、ちゃんと自分たちにしか作れない商品の商品化してそれを販売していきましょう、というそれどこを目指しているのか。プランを作る段階なので別にそこまで気にしなくていいのかもしれないのですが、そこを知って作るのと、考えないで作るのは全然違うかなと思いました。日々すごく苦しむ、商品を作ってビジネスをするのは。そのうえで自分の心配ごとって感じで。

心配事で最後に、消費額をみてショックを受けていたんですが。たとえば、宿泊費、日帰りにしても、飲食費とかっていうと日帰りだと 1000 円くらいで 2000 円もいかない、体験料っていったら 1000 円もいかない。うちの漁師のもてなしランチだと 4000 円程度、体験料だと 1 万円以上するし、どうするのよ、うちの会社というか、この先あるのかなと思いながら見ていました。そういう心配事もあるのでもう一度そこを整理してプランを考えるのが必要かなと思いました。

【阿部会長】

ありがとうございました。続きまして松橋委員お願いいたします。

【松橋委員】

はじめまして。八戸ホテル協議会の松橋です。

いろいろ皆様のご意見、非常に勉強になるなと思っていました。今回は地域だけではなくて関東圏からも委員の方が集まっているというのはすごく心強いと思っていて、地元は地元目線でしかないので関東圏とか他の地域の方々がどういうふうに見ているのかというのが率直に聞ける場で非常にありがたい場だと思っていました。

地元としてはどういうふうに動いているのかというのを意見を言いながら皆さんと一緒に観光に対する目標に向かって歩いていきたいと思っていました。

では市内どうなのかという現状を報告しますと、実は去年よりも宿泊部門は全般では 97 とか位です。

去年よりは上回っていないです。近々の 8 月だけは去年をどこも上回っていて 100.8 とか。

去年は実はコロナ明けだったのですが、国の助成金があったので、そういうのもあって宿泊は実は去年のほうが今の現段階だとトータルだといいいです。そういう意味だと厳しいという状況です。また市内なんですけども新しいホテルが 120 室くらいで建つということで、観光というのをきちんととらえておかないと、客室は増えるけれども需要はどうなのかというところで、ホテル全体では感じている部分ではあるので、漠然としたという感じではなくて、ある程度効果があるような対策・目標が必要かなあと感じていました。

肌感覚で感じたことをもうひとつ言わせてもらおうと、ケンミンショーというテレビ番組がありますが、先月か先々月に八戸の朝市の特集がありましたらその週の後半はグッと宿泊客が増えたという案件がありました。メディアはやはり強い、特に地上波。確かにネットももちろん強いんですけども、まだまだテレビ強いなと感じまして、私と同じくらいの中高年のご夫婦が週末増えたということがありますので、いろんなやり方もあるんですが、隣の久慈のあまちゃんもそうですがメディア、テレビ等を活かした観光というのも少し力を入れてもいいのかなと思いました。以上です。

【阿部会長】

ありがとうございました。村山委員お願いいたします。

【村山委員】

村山と申します。よろしくお願いいたします。

まず、VISIT はちのへさんとはインバウンドの分野のアドバイザーということで支援させていただいています。そういう関りから今回こちらにも来させて頂いたのですが、今私自身は、インバウンドの専門家としていろいろな地域のお手伝いさせていただいているのですが、VISIT はちのへと八戸市さんを見ていて思う事とすれば、先程町田委員もおっしゃっていたのですが、計画が今までなかったというのが、最初入ったとき意外でした。この規模の都市で観光の計画がないというのはあまりなかったかなと思ったので、今回計画を作る事自体が素晴らしいと思いますし、大きなステップだと思います。

そのあたりの役割分担、VISIT はちのへと観光課の役割として戦略をここでしっかり作って一個の部分をお願いするのか、VISIT はちのへで戦略まで考えてもらうのか、そのあたりの分担の部分も今後整理していくことになると思うのですが、まずは計画として市でしっかりと観光全般、インバウンドも含めてということで描いていくということで、そういうことなのかなと思っております。

その中で 0 から 1 を作るというのは、私も色々な地域の委員、観光の振興計画の委員もさせていただいているのですが、だいたい前の計画があってそれを踏襲するケースが多いのですが、0 から 1 にするのは今回チャレンジングというか、4 回の会合があるのですが 4 回でまとまるのかと感じています。そこはもうちょっと必要かなあと。調査とか追加のデータとか、色々な整理事項が発生すると思うので、その

辺を含めてもう少し精査していく必要があると感じています。

いずれにせよ、戦略を作るというのはとても重要だと思いますし、観光って、私も観光を専門にやっていますが、手段だと思います。目的ではないので、観光を通じてその地域をどうしていくのか、そこが鍵だと思っています。

他の地域でいうと気仙沼とかは震災によって漁業、生産業に寄っていたところが、震災で漁業が成り立たなくなったので新しい柱を作ろうということで観光に特化して取り組まれていて、今、気仙沼は観光を頑張ってやっているんですが、そういう危機感から観光に寄せるというやり方もあると思いますし、八戸市が今回どういう形で計画を作っていくのかというのは整理が必要だと思っています。

私、インバウンドが専門ということで、インバウンドの話でいうと、今回データがあまりないんですよね。アンケートをホテルさんに協力いただいてとってはいるものの、母数がまた少なかったり、観光案内所でも協力いただいているものの母数が足りなく、ホテル的に外国人観光客の認知度、今回日本人の認知度はあったんですが、外国人観光客における八戸市の認知度とか、何を求めてきているのか、何を見て知ったのかを含めて、その辺のデータがないと思うんですね。なので、ない中で計画を作っていくのか、クイックにできることをやりながらそれを少しインプットしながら計画を作っていくのかなあと思うのですが、今の側面でいうと必要な情報がかなり足りないと思うので、そこをどうするのか今後詰めていけるといいかなと思っています。

いずれにせよデータの部分、計画作りの話、あとは八戸市を何で売っていくのかというのはカギだと思います。食と自然というのはありましたが、客観的に見ても食と自然は売りだと思いますし、他の周辺エリア、宿でいうとやっぱり私は特にインバウンドをやらせてもらっているのが台湾の方が来ると青森屋に泊まって奥入瀬溪流ホテルで泊まって八戸では泊まらないというツアーもあるので、全部が全部ではないのですがそういうツアーもあります。目的地となる宿であったり、あるいは海外の方、特にアジア系が好むのはツインのタイプの部屋がもうちょっと多いとかルームが少し広いとか、ハードの部分は時間がかかると思うので、今回の計画を踏まえて中長期の中でどれくらいハードを整備していくのかというところを、計画に沿ってハードの整備を進めていく必要もあるのかなと感じています。

長くなりましたが最後に一点だけ。町田さんはじめ地域の事業者の方もいらっしゃるのですが、インバウンドに関していうとあまり積極的な方が少ないのと、他の地域と比較するとあります。インバウンドのメリットとか数の増加を実感していないから、モチベーションがあげられないというのがあると思います。鶏と卵の部分もあるかと思っていますし。

大矢さんもインバウンド特化の宿泊施設を立ち上げるということですので、事業者の方々をいかにやる気を持ってもらうというか、やる気のある方をいかに支援して活躍いただくか、その辺のプレイヤーの部分の可視化、活性化も大きなカギだと実感しています。まだいろいろとあるのですが、いったんここで閉じたいと思います。よろしく願いいたします。

【阿部会長】

ありがとうございます。吉田委員お願いいたします。

【吉田委員】

皆さんこんにちは。JR 八戸駅の吉田と申します。

おとし開業 20 周年を無事迎えて、当時開業に携わった身として、20 年ぶりにこういう立場で八戸にきて、昔一緒に仕事をした今日の阿部会長とか、久々にお会いして、新幹線の発車メロディーを八戸小唄でやりましょうということで当社では一番短い三ヶ月くらいで発車メロディーの準備をしてスタートしたというのが思い出です。縁があって八戸に来ましたので、青森だとか釜石駅でもお仕事させていただいて、特に感じるのは行政と会議所とのバランスが一番、私が回った中では強固だなと。あとは、物の決まるスピードも八戸が一番早い。

こういった意味では、こういった会に皆さんが入っていらっしゃるのはいいなと思いますし、そこはもっと強くしていければいいなと思います。そのひとつにも、八戸の新幹線の会合があったのかなと思います。当時の準備実行委員会も含めてですね。そういった関係を我々 JR としても一緒に入っていければというのが感想です。

町田さんもおっしゃっていましたが、私としては観光で売るなら事業者もですが、市民のみなさんの意識、観光で食ってるんだ、観光って儲かるいいことなんだという意識を作ってあげないと、このメンバーだけで盛り上がってもしようがないと強く思っています。それはどこの街でも同じだと思うのですが。先程おっしゃっていた気仙沼に行っても、市民の方のそういった熱意を感じる土地もありますし、事業者だけ盛り上がっている土地もあります。そういう意味では市民の皆さんの意識、観光で食っていくんだ、観光っていいんだと、儲かるから旅をしようということで、そういった交流人口が増えていくと、そういった形で経済が回っていければ一番いいなと思います。

八戸駅、どうしても新幹線のゲートウェイということで八戸線もありますし、タクシーもバスもありますが、中心市街地の活性化としては、本八戸駅から歩いて来れるという利便性、10 分足らずで来れるということで、もっとここを売っていきたい。シームレスで Maas の推進ももっとやれればと思っておりますので、そこは課題となっていくのかなと思います。

宿泊に関しては、皆様ご存じの通り青森駅にもホテルができて、医療系も兼ね備えたホテルということで、今度、種差にもコテージができたり、シーガルビューさんにもありますが、メディカルもいれたような宿泊も必要かなと思います。種差でヨガをやっていますが、ああいったものから、療養とメディカル、そういった宿泊も今後必要になってくるのかな、あとはトレイルの幅も広がってくるのかなと思っておりました。あとは、私は地元ではないですが八戸を 20 数年見てきて、やはり横丁の文化と朝市の文化、そこにあるのは宿泊だと思うんですね。泊まらないと行けないという。例えばそれに絞って今年はやるとか、そういった、あまりにもありすぎていっぱいあるんですけど、どれをやるのかというところなので、絞りながらプランを作っていくのもひとつかなと思っておりました。

よろしくお願いいたします。

【阿部会長】

渡辺委員よろしくお願いいたします。

【渡辺委員】

皆様大変お疲れ様でございます。東北観光推進機構の渡辺と申します。どうぞよろしくお願いいたします。東北観光推進機構は、東北新潟、東北6県をエリアとして、広域な観光のプロモーション、観光地域づくりというのはできておりませんので、それは地域利用の方ですね、河東さんや阿部さんにご尽力頂きまして、その中で効果的にいろんな発信をしていくという組織でございます。まさに VISIT はちのへの阿部さんや、釜石の河東さんにもお世話になっておりますし、また我々も外国の訪日客に向けてさまざまなコンテンツを紹介しています。その部分では町田さんのところの AC プロモートさんとも今連携をしてお世話になっているというところです。

今回、今までの委員の皆さんの発言を聞いて、これから八戸の未来をつなぐような観光のビジョンを皆さんと一緒に作れるということで責任を感じておりますし、私自身もわくわくしているところであります。ぜひよろしくお願いしたいと思います。

今我々の方で中心的にやっているところというと、これは八戸市さんもそうですが、みちのく潮風トレイルをはじめとしたアドベンチャーツーリズムの推進というものをやっています。ちょうど昨日アドベンチャーツーリズムの世界的な ATTA 【Adventure Travel Trade Association】の皆さんと観光庁と日本政府観光局の皆さんが審査員になって、来年アドベンチャートラベルの一週間の大型のファミトリップを日本政府観光局の事業で計画しているのですが、その最終審査のプレゼンがありました。来年秋頃に一週間 15~20 人くらいのアドベンチャーツーリズム関係のメディア、専門旅行会社がその地域を訪れるということになっていまして。東北全域6県の皆さんとガイドの皆さんと一緒に昨日プレゼンをしたのですが、私自身は手ごたえを感じています。発表は9月上旬ということなので、なんとかこれを東北に誘致しながら東北全体のアドベンチャーツーリズム、あるいはサステナブルであったりスローツーリズムを推進していきたいと思っています。昨今オーバーツーリズムという話がありますが、東北については、そういう状況ではありませんので、これからの新しい観光を率先して作っていく。新しい時代の中での切り口で、先進的な観光の姿というものを作っていけるんだろうと思いますので、そういう意味でいうとスローツーリズムであったりあるいはレスポンシブルツーリズム、市民の方がお互い観光客と繋がって存在を認めあうというような、市民参加型の観光を東北の中で作っていくべきだと思いますし、八戸市ではそういう市民の今までの生活文化が観光コンテンツになりうると思いますので、その辺をぜひ切り口として一緒に作り上げていければと思っていますところでございます。直近のデータの中で、アメリカの方が18%というデータがありました。先程村山さんからデータが不足しているという話の中で、東北観光 DMP というデータ、これ VISIT はちのへさんも使っていただいています、動態データとか消費購買データが見られるものがありますが、その中でもいろいろ情報を取っていききたいと思うのですが、今日来る前にそのデータの中では台湾の方が昨年が一番多かったです。だいたい半分くらい。それは米軍の居住の方は除くデータなので、たぶんそうなると思うのですが。今日御し頂いたものは18%アメリカ人、これは米軍の関係者の方も入っているのかなあというところで、その辺はまだわからないのですが。逆に、米軍の基地の関係者の方が八戸にお泊りいただいて観光していただく、というところは、我々もよく事業の中で、ファミトリップでまず来ていただいていいものを見て SNS で発信して下さいというインフルエンサーの商戦みたいなものをやっていますが、アメリカに発信でき

る方が身近にいる、18%と一番多く来ているというのはすごくメディア戦略、発信の中ではアドバンテージなのかなと改めて思った次第です。三沢の基地の方にインフルエンサーとして発信することをお願いできませんけれども、いいものであれば、満足してもらえれば、必ずいろいろな発信をしていただける。これもひとつ八戸ならではの新しい情報発信の道かなと直感的に思ったところです。やはり、これからインバウンドに向けて、各地域の取り組みとして、ひとつの自治体だけで取り組んでいるというのはだめでありまして、旅行者には県境も市の境界もありませんので、エリアとして旅行者目線としていろいろな良いものを発信していくんだろーと思いますので。そういった意味でいうと、みちのく潮風トレイルがあって、今後八戸十和田トレイルというところでさらに広域に伸ばしていくということであったり、今もやっていただいておりますが、弘前、函館、青森、それぞれと連携を深めて頂くと非常に効果がある話だと思いますので、広域の連携というところも、必要性というところで進めて頂ければありがたいと思います。最後ですが、やはり道を作るには市民の参加、共感が一番必要だと思いますので、そのためにも、先程委員の皆さんのお話にもありましたとおり、観光消費額であったり、その中でも域内調達率、どれだけ市の経済に観光というものが寄与していくのかというのを可視化する、見える化する、というのが必要なんだろうと思いますし、その中で雇用の面であったり人財、やっぱり八戸で生活していく、そのとき観光業界に勤めてそれで生業としていくという好循環とか、我々観光に携わっているものの以外の皆さんも広く観光について理解を深める、市民全体で八戸の観光を盛り上げていくというようなビジョン、そのためにその制度を可視化して市民に伝えていくというのが一番必要なんだろうと思いますので。その辺のテクニカルな部分、どういったことをすればできるのかというところで、他の地域の事例も各委員の皆さん、私も調べてみたいと思いますが、市民の皆さんに共感ができるビジョンを作ればいいかなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【阿部会長】

ありがとうございました。井上副会長お願いいたします。

【井上副会長】

改めて井上です。よろしくお願いいたします。

今日は副会長という立場から申しますと、多くの知見を持った方々が委員となって観光プランを作っていけるというのはすごいと実感しています。たくさんの意見など大変勉強になりました。ありがとうございました。委員の皆さんからあったとおり、観光として八戸市圏域はどういうところを目指していくのかというところを今一度考えていかないと、たぶん色々な方向性はあるんだろうと思いますので、それをすべて実現させるのか、それとも取捨選択して強いものを伸ばすのか、冬季の閑散期という話もありましたが、そこに本当にエネルギーを使うべきなのかどうか、そういったところも含めて議論していく必要があると思いましたが、議論するためにはデータがまだまだ足りないと思いましたので、そのあたりを会議で詰めていくのがいいのかなあと思いました。

個人的な意見をいいますと、観光として八戸は何なのかというところが、地元のほうでもまだはっきりしていない。青森市だとねぶた、弘前市は桜とりんご、自然といえば十和田奥入瀬、八戸はせんべい汁

という話になると思うんです。せんべい汁は私も好きなので悪く言うわけではないですが、生活文化がひとつの観光資源になってきているというのがひとつのヒントなのかなと思います。まだまだそれが町田さんのおっしゃるとおり、観光コンテンツになっているのかというと、わざわざそれを目的に外からお客さんが来るのかというと、まだそこには付加価値をつけていかなければならないんじゃないかなあと思います。それを事業者や市民が作っていかなければいけないのかというと、それだけではないのかと思ってまして、できれば観光客として来た人が、関係人口という話があるんですが、何回も来ていただいてファンになり、場合によっては移住、定住などで一緒に作っていく、そんな人材が出てきてもいいんじゃないかと思いますし、願わくば、大学なんかも県外の学生が多いのでそういうのに関わってほしいという思いも持ちました。

その時に、もちろん食、生活文化という魅力もありますが、そこに人とかかわりというのがあるんじゃないかと思います。八戸の魅力に人というのが私はあるような気がしています。実際若者の街の魅力というのを調査していますが、実際八戸は、おじさんにとってはすごい魅力的な街なんだと思います。飲み屋が多くて夜が楽しい。出張で来るお客さんもたくさんいる。そこに若者とか女性がかかわっていけないので、そこが今課題であると別の委員会のほうで話をしているのですが、魅力になっていくような人を今後どう育成していくのか、どうかかわっていけるのかということも、八戸市やVISITはちのへのプランとして考えるかどうかは検討が必要ですが、人材育成の仕組みというのも考えていかなければいけないと思いました。いったんここで失礼します。ありがとうございました。

【阿部会長】

最後になりますけれども、私から。

いろいろとたくさんご意見いただきましてありがとうございます。今回八戸市の観光振興プランということで作っていただくということでお話いただいているのですが、何もなかった中でプランを作っていただけということだったので、私自身もこれを作ることでこれからやっていく様々な観光事業のやりやすさがあるのかと、思っていました。そういった意味で0からのスタートなので、本当に八戸の観光の今後の礎になるプランかなと思っておりますので、皆さんから幅広くご意見いただいて作っていただければと思っています。あとは、様々な課題があるんですが私自身も思っていて委員の皆さんからも頂いた中では、調査の中身とか深堀とかは足りないと感じながら仕事をしてきたところでもあるので、リピーター率7割の話もでたんですが、アンケートの分母が多いのかといわれるとあまり多くないのかなという実感もあるなかで、あるホテルの支配人から聞いた話ですが、肌感覚で観光とビジネスどれくらいの宿泊かと聞いたら、ビジネスが7割かなあと。まだまだ観光が少ない。そうすると、さっきのリピーター率7割というのは結局アンケート出してくれている人の中でビジネスでリピーターで7割というのが出ているのかと、ある意味整合性がある数字かと感じていました。そういった意味でいろいろと頂いた意見を活かして、あと今年度内に作るのなら半年ちょっとしかないという中で非常に大変だと思いますけれども、ひとつよろしく願いしたいと思っています。私からは以上です。

これで審議は終了ということで進行を事務局の方にお返ししてもよいでしょうか。

【事務局】

委員の皆様、貴重なご意見をいただきまして大変ありがとうございました。
それでは工藤部長からひとことご意見を頂きたいと思います。

【工藤部長】

初回ということで、いろいろなご意見いただきまして本当にありがとうございました。
町田さんからもお話がありましたが、ベースが今ない状態でお話を頂いているところであります。0 から1を作るということで、まさにその通りでございます。ただ今まで VISIT はちのへが観光をやってこなかったわけではないので、観光資源なのか観光コンテンツなのかというところもお話ありましたが、地域資源が観光コンテンツになりうるのかというのは必ずしもイコールではない、というのは思っていますし、八戸三社大祭やえんぶりがありますよといってもそれをいかにみていただくのか、それをいかに付加価値をつけて誘客していくのか、魚に例えると餌と釣る魚の問題でもあります。どういう種類の魚種を狙って漁をするのか、そういうところに近いのかと感じながら話を聞いているところであります。

今年度4回とお話していましたが、議論の深まり具合においては、お時間が許せばですが、特定の分野においては委員さんお得意の分野から個別にお話を伺うというようなことも考えていました。4回でおさまりきらない場合は、そういう形で補完もしながら、場合によっては回数増やすかもしれないんですが、もし増えたときには何とか来ていただければと思います。WEB でも対応しますので、ぜひ参加いただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。先程部長からもお話がありましており、場合によっては議論を深めたい項目などが今後出てくることもあろうかと思っておりますので、審議回数を増やすことや、個別に相談することなども考えておりますので、委員の皆様におかれましては多岐にわたりご意見を賜りたいと存じます。本日、委員の皆様から頂いたご意見につきましては今後、市の観光振興施策の推進の参考にさせていただきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。なお次回、審議会におきましては時期等が決まり次第ご案内いたします。

以上を持ちまして、第一回観光振興審議会を終了いたします。長時間にわたり大変ありがとうございました。